

マヌエエ

No.35

藤沢今昔物語

伝説を歩く

監修 文高野修 写真 松尾順造
財団法人 まさん産業文化振興財団

平成11年9月発行 ● 発行人 平澤貞昭 ● 編集人 高橋紀雄 ● 発行財団法人はまさん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171(直通) 關西北社 大日本印刷



藤沢今昔物語

伝説を歩く

古くから藤沢に語り伝えられてきた伝説を訪ねます。

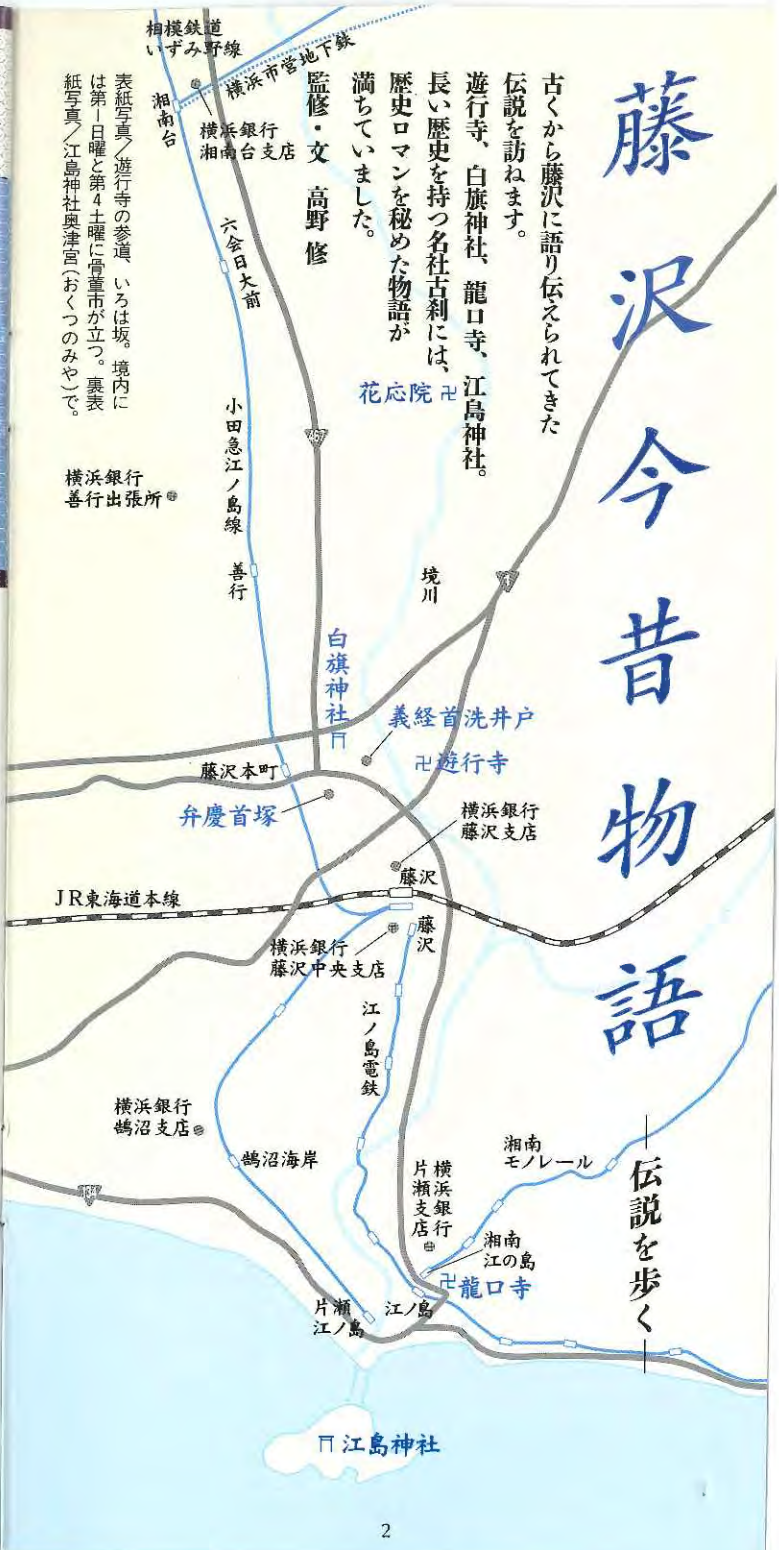
遊行寺、白旗神社、龍口寺、江島神社。

長い歴史を持つ名社古刹には、歴史ロマンを秘めた物語が満ちていました。

花応院

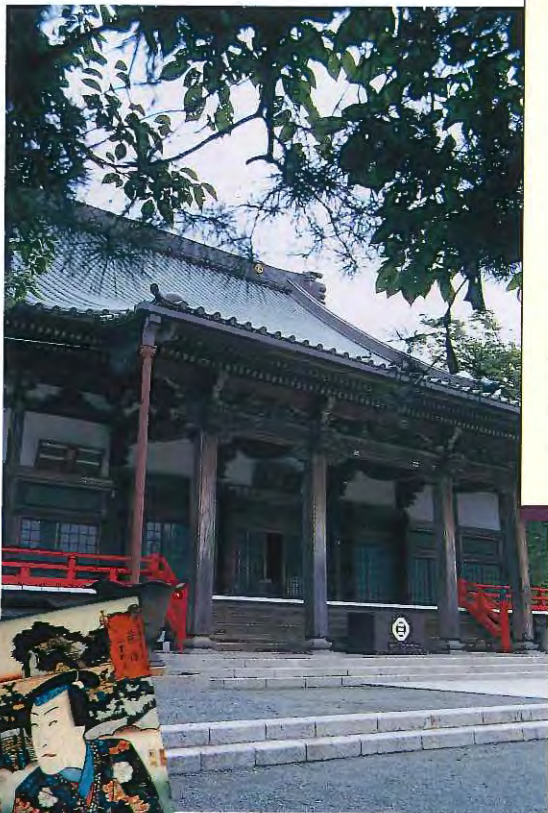
監修・文 高野修

表紙写真／遊行寺の参道。いろは坂。境内には第1日曜と第4土曜に骨董市が立つ。裏表紙写真／江島神社奥津宮(おくつのみや)で。



巻一 遊行寺

小栗判官と照手姫伝説



上／時宗総本山遊行寺の本堂。1325年、遊行四代の呑海(どんかい)上人が開基。左／浮世絵に描かれた小栗判官(写真提供／高野修氏)。

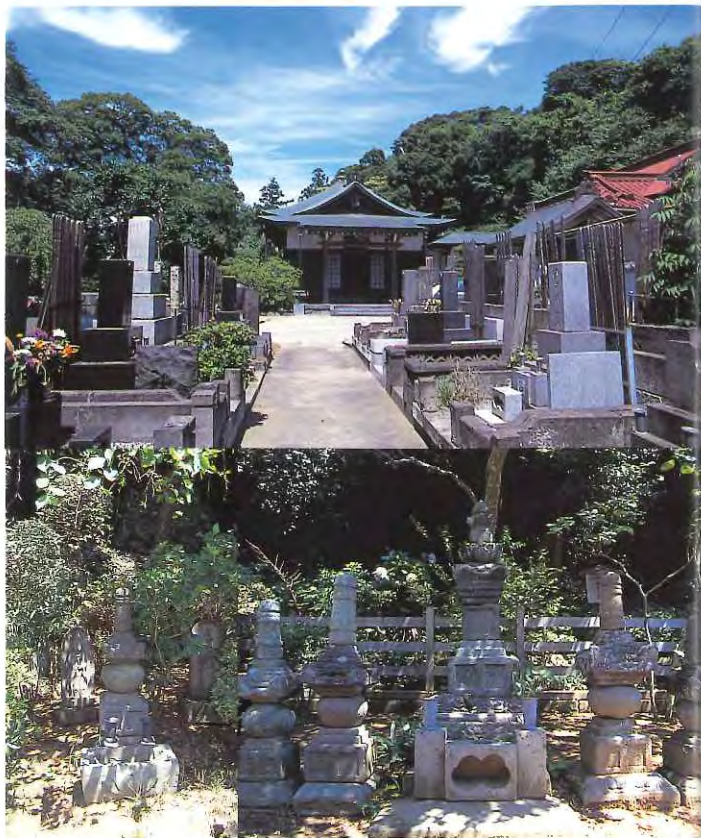
物語の舞台は藤沢

歌舞伎で知られる小栗判官・照手姫の物語は藤沢が舞台になっている。

遊行寺は、正しくは藤沢山清浄光寺というが、この遊行寺の本堂右後手に照手姫が尼になって暮らしたという長生院がある。

照手姫は、照天姫、照姫ともいわれ、永享元年(一四一九)に遊行寺の太空中人に帰依して剃髪し、長生比丘尼と号したという。

長生院の本尊は阿弥陀如来坐像で藤原時代末期から鎌倉時代初期の作である。堂内には本尊と共に、閻魔王像、小栗満重像が安置され、裏手には小栗満重主従と照手姫の墓と伝えられるものが残っている。



上／小栗堂ともよばれる長生院本堂。右下／本堂裏手に建つ小栗とその従者十人のものと伝えられる墓。左下／伝照手姫の墓、小栗主従の傍らにひっそりと建つ。



右上／長生院の本尊、阿弥陀如来坐像（写真提供／海井和男氏）。右下／小栗に土車をつかってやった遊行寺の太空中人（遊行寺宝物館蔵）。左上／閻魔王像（長生院蔵）。左下／端正な顔立ちの小栗満重像（長生院蔵）。

『小栗略縁起』に見る小栗伝説

小栗判官と照手姫の物語の原形は、室町時代のことを書いた軍記『鎌倉大草紙』に見られる。それを元に、さまざま物語が生まれたが、長生院に伝わる『小栗略縁起』では、次のようになっている。

応永年間（室町中期）、常陸の豪族小栗満重は謀反の噂により、鎌倉公方足利持氏に攻められ逃走。縁者を頼り三河に向かう途中、藤沢で盗賊とも知らず横山大膳の館に宿を求め、そこで大膳の妓女の照手姫と恋仲になり夫婦の契りを結ぶ。これを知った大膳は小栗を憎み、荒馬の鬼鹿毛に食い殺させようと計り乗馬をすすめるが、小栗は自在に乗りこなして

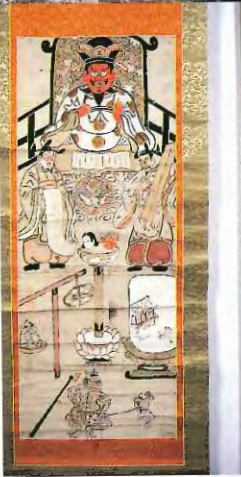
しまう。ならばと酒宴を催して毒酒を飲ませ、小栗や従者が倒れると大膳は小栗の財宝を奪い、その死体を上野ヶ原に捨てた。

その夜、遊行寺の太空中人は、夢の中で閻魔大王の使者からの手紙を受け取る。十人の従者は助からないが小栗は生きかえらせる。早く熊野の湯にやれば全快すると書いてあった。夢からさめた上人は弟子をやって、満重を連れ帰った。そして車をつくり、札をつけた。それには「熊野本宮の湯に送る病夫である。この車を引いて一歩歩いたものは千僧供養よりも功德がある」とあった。そのため道行く人々が次々に綱を引くのであった。

一方、照手姫は満重主従が殺されたので、世をはかなみ武州金沢の野島に逃れたが、横



右上/左の閻魔像の胎内仏の閻魔像（花応院蔵）。左上/元西侯野の閻魔堂にあった閻魔像（花応院蔵）。左下/花応院に伝わる地獄変相十王図の一枚。これと次ページの絵巻を使い、例年一月と八月、小栗判官の物語と地獄の様子が花応院で絵解きされている。



右下/花応院本堂。左下/元閻魔堂に残る小栗墓塔。江戸時代、小栗人気はものすごく、赤穂義士を描いた物語にも登場したという。



右/西侯野の伝小栗塚碑。最近まで、こんもりとした塚が残っていたという。左/西侯野から遊行寺方面に広がる道場ヶ原。

山の部下に探し出され川に投げ込まれる。観音の加護により漁師に助けられ、その家に身を寄せることになった。けれども、漁師の妻が姫の美貌を嫉妬して、松葉を燃しいぶり殺そうとする。このときも観音の助けで事なきを得た。しかし、漁師の妻は姫を人買いに売り、美濃の青墓の宿まで流れることになる。熊野の湯で全快した満重は三河に行き、一族に頼んで幕府に訴えたところ、疑いがとけもとの領地の常陸に帰ることになった。後に横山の一族を討ち、遊行寺に上り、上人の恩に感謝し法要を営んだ。また照手姫が美濃にいることを知り、呼び戻して禄を与えた。満重は応永三十三年（一四二六）に病死する。その子助重が家を継ぎ、遊行寺に詣でて

亡父および十勇士の墓を八徳池のほとりに建てたとされる。照手姫は出家して長生院に住み、地藏と観音の像を安置し朝夕の回向を怠らず、永享十二年十月十四日に往生した。一説には、永享六年に長生院を造立したという。

藤沢に残る小栗伝説の史跡

藤沢には、小栗伝説にゆかりのある地名・史跡が多く、西侯野には小栗塚とよばれる塚が最近まで残っていた。

説経節『おぐり判官』では「ふぢさはの上人は、なんぼう方に出給ふが、うはのが原に、とび鳥のわらう声を聞召、立よりみ給へば小栗塚が三つにわれ、中より手足は糸のごとく

小栗判官照手姫縁起絵巻の部分
(花応院蔵・写真提供/高野修氏)



にて、腹はまりのやうなる餓鬼一人あり」とある。この小栗塚は、遊行寺との関係を見做してはありえない。西俣野付近には道場ヶ原や道場坂の地名がある。

遊行寺は藤沢道場といい、時衆が定住したお堂を道場と称するので、西俣野や東俣野の周辺に道場があったのかもしれない。あるいは、西俣野から遊行寺の間に広がっていた原野を道場ヶ原と呼び、東俣野から遊行寺への坂に道場坂の地名が付いたのかも知れない。いずれにしても遊行寺とは無縁ではない。

西俣野の道場ヶ原は、小栗塚のうはの原の近くであって、藤沢の上人が、南方に出かけ、うわの原で小栗の餓鬼に出会うという場面は、史実からみて、無理のない設定である。さら

に、小栗が横山の酒宴に招かれて荒馬鬼鹿毛に乗った話は、俣野町(横浜市戸塚区)に鬼鹿毛の地名が残る。かつて武蔵・相模における横山党は中央において恐れられていたが、この辺はその横山党の支配下にあったという。

西俣野には、閻魔堂があったが、幕末に火災により廢堂になってしまい、閻魔像は近くの花応院に移されている。閻魔堂がいつ建てられたものであるかは不明である。今、閻魔堂のあった地には、小栗墓塔が建っている。

遊行寺(藤沢市西富) JR東海道本線・小田急江ノ島線「藤沢駅」下車、徒歩15分
花応院(藤沢市西俣野) 小田急江ノ島線、相模鉄道いずみ野線、横浜市営地下鉄「湘南台駅」からドリムランド行きバス「西俣野」バス停下車、徒歩3分

【小栗判官と照手姫 愛の奇蹟】

遊行寺で行われる夏、恒例の舞台。説教節「おぐり判官」を基に、白石征氏が書き下ろしました。餓鬼阿弥の姿で、現世に甦った小栗。その小栗の乗る土車を夫とも知らず、夫の供養にと引く照手。やがて照手の清らかな心が小栗を癒すことに。写真一、夫の往生を願う照手。二、鬼鹿毛を乗りこなす小栗に驚く横山一族。三、照手は小栗に父、横山大膳の館に行かないよう懇願。四、土車を引く照手。五、謀られた目のことを思い出す小栗。そして、人は仏の前では許されていることを悟る。



藤沢の義経伝承



上/白旗神社社殿。義経と寒川比古命を祭る。右/江の島付近で渦巻く波。義経の首は片瀬の浜に捨てられ、それが潮に乗り境川をさかのぼったという説もある。

義経ゆかりの白旗神社

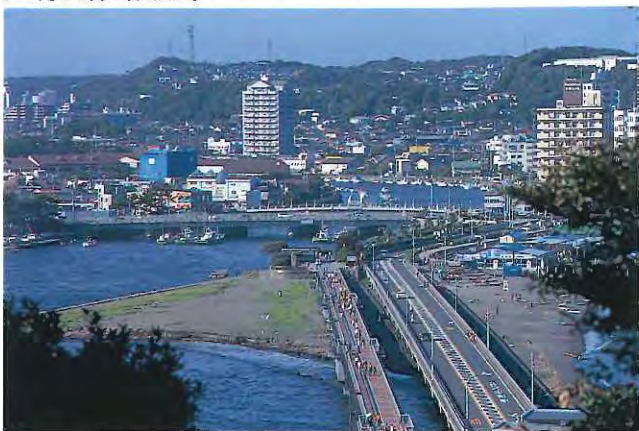
湯立神楽で知られる白旗神社は、鎌倉将軍源頼朝の弟義経を祭った神社として知られている。この神社は亀形山きりかたけといい、古くは相模一の宮の寒川比古命を祭っていたという。

鎌倉幕府の記録『吾妻鏡』によれば、義経は兄頼朝の勘気をうけ、文治五年四月三十日、奥州衣川の館において自害した。同年六月十三日、奥州より新田冠者高平を使いとして、義経の首を鎌倉に送った。高平は、腰越の宿に着き、そこで和田義盛・梶原景時によって首実検が行われたという。しかし、その後この首がどのように処置されたかについては、何も語ってはいない。



上/義経の首を洗ったという井戸。白旗交差点近くの路地を奥に入った児童公園の中にある。左/白旗神社の壁面の紋。

江の島から見た境川河口。



文政十三年（一八三〇）に藤沢の小川泰堂おがわらたろうが書いた『我が住む里』には義経の首塚について次のような記述がある。

ある日、藤沢の川辺（境川）に金色の亀が泥にそまつた首を、甲羅こうらに負って出て来た。里人がおどろいて怪しんでいると、かたわらにいた童子が、たちまちに狂気のごとく肘を張り、「われは源義経なり、薄命にしてさん者の毒舌にかかり、身は奥州の高館たかねの露と消えるのみならず、首をさえ捨てられて、そのうらみやるかたなし、汝等よきに甲とむらいくれよ」といい終わって倒れた。人々はおそれ、これを塚としたとある。これが首塚であり、のちに首塚の北の山上に社を営まれたのが白旗神社であるという。しかし、白旗神社の以



腰越の海。八百年前はどんな色をしていたのだろうか。

右/弁慶塚。下/弁慶塚のある公園。弁慶ゆかりの史蹟は義経を見守るような位置にあることが多い。



弁慶塚と義経首洗井戸

前に、すでに寒川神社の末社があったという記録もある。とするなら、この末社がのちに白旗神社として発展したのではないだろうか。

義経といえは弁慶といわれるほどに二人の関係は切り離しては考えられないのであるが、その弁慶の首塚も藤沢市南消防署本町出張所の近くにある常光寺裏手の児童遊園地の石段の上に鎮座している。碑面は摩滅しているが、「弁慶塚」と判読することができる。これを八王子社と呼んでいる。

道順は済美館の左側の路地に入って行くと、左に児童公園がある。ここがかって八王子社

が建立されていた跡であろう。その広場の上が近在の庚申塔を集めた場所、その中に忘れられたように「弁慶塚」の碑がある。もちろん何の説明もない。史蹟が人々から忘却されてしまうのは忍びない。それが民俗伝承であったとしても、なにか弁慶に対して片手落ちのように感じるのは、僻日であろうか。

近くには「義経首洗井戸」が残る。これは文治五年に首実検が行われた際、義経の首を洗い清めた井戸だというが、首実検が行われたのは腰越でありむしろ、小川泰堂説による泥にそまつた首を洗った井戸だと解釈した方がよいのではないだろうか。

白旗神社の社殿は、記録によれば、宝暦二年（一七五二）に再建され、旧坂戸町総鎮守となり白旗神社と称した。文政三年（二八二〇）火災にあい、天保六年（一八三五）再建、昭和五十六年に、大改修が行われている。

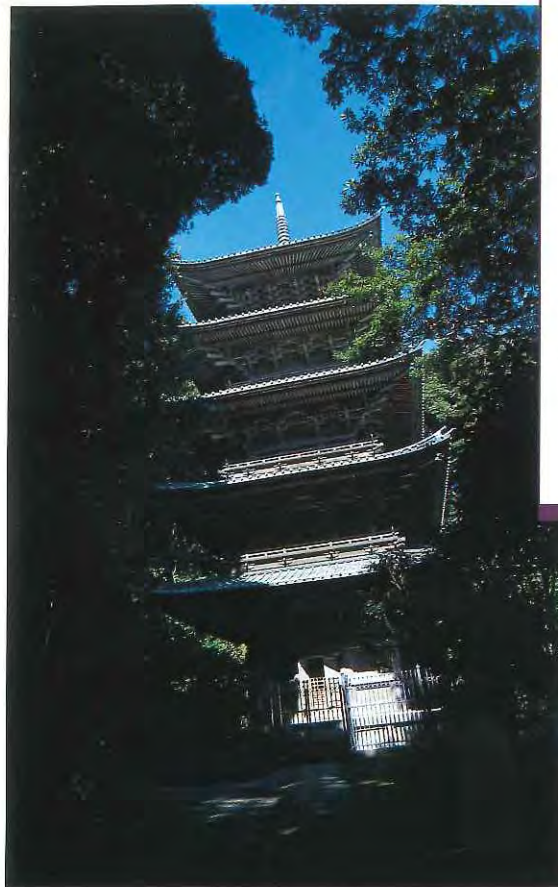
平成十一年六月十三日には「源義経公鎮靈祭」が、白旗神社氏子総代並びに関係者と宮城県栗駒町地元有志代表者によって営まれた。義経の首は白旗神社に祭られているが、体は栗駒山の麓に祭られており、双方の魂土を合わせ供養したのである。鎮靈碑を建立し、この日に除幕式が挙行された。

義経死して八百年、ここには伝承とロマックが今も生きている。

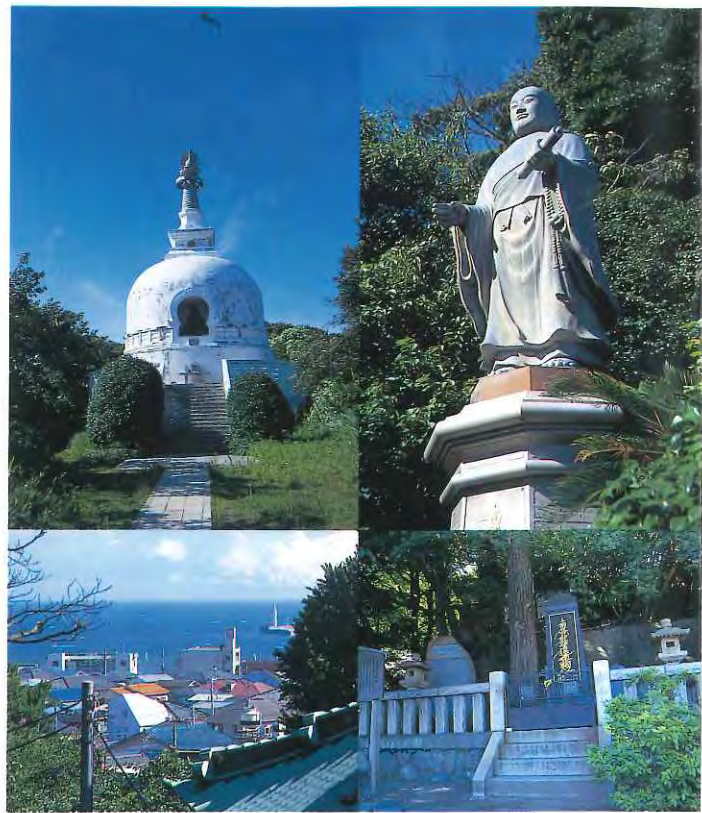
白旗神社（藤沢市藤沢）

小田急江ノ島線「藤沢本町駅」下車、徒歩5分

法難の地が霊場に



左／龍口寺の五重塔。山門、本堂は江戸時代の建造物。境内では、毎月第3日曜に骨董市が開かれている。



右上／境内に立つ日蓮上人像。右下／龍口の刑場跡碑。毎年、9月12日には、龍の口法難会が開かれる。左上／山頂の仏舍利塔。左下／山頂から見た片瀬の眺め。

『立正安国論』を再度幕府に提出したことや、

信者の活動が激しくなったことにより、日蓮らに対する迫害は強まり、文永八年（一二七二）九月、日蓮は捕えられ、佐渡流罪を言い渡された。流罪というものの、その実は、夜陰に乗じて護送の途中、侍所平頼綱が鎌倉の町はずれの龍口で処刑することになっていた。龍口にさしかかり、まさに首を落とそうとしたその瞬間、対岸の江の島から光るものが現れ、太刀取りの日はくらみ、警護の兵士たちは逃げまどう大混乱になった。このことにより、日蓮はあやうく一命をとりとめ、佐渡へ流罪になった。これが龍口の法難といわれる伝承である。この光ものについて、藤沢宿出身の小川泰堂は雷であろうとその著『日蓮大

士真実伝』で解説している。

しかし実際に死罪を免れ流罪になったのは、執権北条時宗の御台所の懐妊にこと寄せて、幕府内の日蓮支持者が働きかけた結果であろうといわれている。

日蓮の龍口の法難の刑場跡には、延元二年（一三三七）弟子の日法によって、龍口寺が建てられた。

境内には神奈川県で最も古いケヤキ造りの五重塔がそびえ、山頂には法難七百年を記念して造られた仏舍利塔が建っている。

龍口寺（藤沢市片瀬）

江ノ島電鉄「江ノ島駅」・湘南モノレール「湘南江の島駅」下車、徒歩一分。小田急江ノ島線「片瀬江ノ島駅」下車、徒歩7分。

江島縁起と五頭龍伝説



上／「江島縁起繪巻」(岩本楼蔵・写真提供／藤沢市文書館)。下右／江島神社辺津宮(へつのみや)。下左／よく知られる江の島の女神 裸弁才天(写真提供／江島神社)。



稚児が湯。この先には龍伝説の伝わる江の島岩屋がある。

監修・文高野修(たかのおさむ)／昭和十年福島県生まれ。元・藤沢市文書館館長。古文書の研究、保存に力を注ぐ。現在、時宗宗学林及び学習院大学講師。著書に「遊行・藤沢歴代人史―時宗七百年史(共著)」、「地域文書館論」などがある。藤沢市在住。

江島縁起は岩本院(現・岩本楼)の宝物として伝来し、天地のはじまりから説明している。

江の島誕生以前より深沢(鎌倉)に湖水があり、ここに五頭一身の龍王が住み、七百年の間、付近に悪事(災害)をなしていた。欽明天皇十三年(五五二)四月十三日から日夜大地が鳴動し、湖水上に弁才天女が出現し、海上に新島(江島)が現われ、弁才天女はこの新島に降臨した。龍王は弁才天女の美貌に恋慕の情を生じ、島に泳ぎ渡るが、弁才天女は龍王の悪事を非難し、悪事をやめれば願いを聞き入れると約束する。龍王は発願して悪業を止めて対岸に龍口山という山になり、弁才天女は江島明神として祭られたという。

それより後、伊豆の大島に配流された役の

行者が、北方に紫雲たなびく島を見つけ、その島に渡り、金窟で祈願していると、弁才天女が現われたと記す。さらに縁起は、江島明神の徳によって、泰澄・道智・空海・円仁・安然らの来島及び弁才天への供養を述べ、仁寿三年(八五三)より社殿(上之宮・下之宮)等が創建・遷宮される過程を描いている。

この江島縁起は、龍王が悪事を一切止めて神仏に帰依するなら願いを聞き入れるという伝承で、宗教説話にはよくみられる。江戸時代末期の伝承には、弁才天女に接吻したら死ぬまで芳香が漂っていたとの話もあったという。

江島神社(藤沢市江の島)

小田急江ノ島線「片瀬江ノ島駅」下車、徒歩10分

上/前身は酒店であるだけに、酒類の品ぞろえには気を配っているという石垣さん。中上/石垣さんの店のある中央通り商店街。中下/視察中、派遣団のメンバーと。三つ星レストランでのディナーも用意され、ヨーロッパ文化を知る上でよい経験になったという。下右/商品管理はパソコンで。下左/ベルサイユ宮殿の前で、団員一同で記念撮影。



海外派遣団員が語る⑬
ヨーロッパも日本も
大切なのは地域密着の店づくり
横浜市瀬谷区三ツ境 (有)石垣商会 石垣宏之さん

地域に役立つ商店へ

（財）はまぎん産業文化振興財団主催の商業従業者海外派遣団に参加し、平成五年にオランダ、ベルギー、ドイツ、フランスを視察してきました。

ちょうど当店の近くに、デイスカウメントストアができて始め、生き残り策を模索していたときで、大変勉強になりました。

視察で、印象的だったのは、オランダのアムステルダムにあるカユペルという、貴金属と時計を扱うお店です。

商店街にある一般小売り店で、業種は

違いますが、私の仕事に近いものを感じました。

店内はアットホームな雰囲気にとめられ、地域とのつながりを第一に考えているのがわかりました。

販売面でも、例えば指輪などは、若者には身分相応の小さめで比較的値の張らないものをすすめ、その方が年齢を重ねて、ワンランク上のものを求められるようになったら、以前販売したものを買い取り、新しい指輪を購入していたかどうかというシステムをとっていました。

そして、店のファンづくりのため、

直接販売には関係ない、ぬいぐるみの修理を行っていました。

地域と長く付き合っていこうと考えるからこそ、こういう深く根を張ったサービスができるのだと思います。私の店も地域に根ざした店でありたいと考えておりますので、この姿勢には学ぶことが多いです。

思案の末、私は店を酒屋からコンビニエンスストアにすることにしました。一つには、今までなじみのなかったお客さまにも、親しんでいたかたからです。でも、一方で昔と変わりがなく、お酒の配達サービスは続けてい

ます。

また、昨年「Mカード」というポイントカードを、三ツ境の商店街で協力してつくりました。私の店のある中央通り、及び協同組合、駅前、富士見通り、ことぶきの五つの商店街の加盟店で、お買い物をしていただくと百円で一ポイントつきます。そして、ポイントがたまる、加盟店でのお買い物に使いやすいだけです。

地域にある店であり、商店街ですから、地域のお客さまを大切に、地域に役立っていきたいと思います。これがこれから地域の商店街が生き残っていく道だと思っんですね。

ビールの国、ワインの国

興味深かったのは、お酒のお国柄です。オランダ、ベルギー、ドイツではビールが目につきました。

ビールという、ドイツがすぐに思い浮かぶかもしれませんが、ビールの種類が多いのはベルギーです。六十〜七十種類はあり、カシスや黄イチゴなどを漬けたカクテル風味のものもあります。

そしてフランスに入ると、ワインの色。ビールはほとんど見ることがなく、国によってこんなに好みが違うものかと驚きました。

のどかさの残る町

三ツ境は、横浜駅まで電車で二十分の便利なところですが、その割に町には緑が多く、暮らしやすいところでは、森をそのまま公園にしたような瀬谷市民の森や、懐かしい日本の雰囲気が残る長屋門公園があります。

長屋門公園はその名の通り、大きな長屋門と古民家がある公園で、季節に合わせて年中行事の飾り付けをされており、日本情緒に親しむことができます。ぜひ、一度足を運んでいただきたいところです。

(談)

右上・下/農村の雰囲気を残した長屋門公園。月1回落語会が開かれています。火曜・金曜休み。9時から17時まで。左上/約19%の面積がある瀬谷市民の森。左中/三ツ境駅から徒歩10分の住宅街にあるアシエンダ乗馬学校。レッスン付きの体験乗馬は8000円(45分)です。金曜休み。左下/三ツ境駅にある横浜銀行三ツ境支店。



石垣宏之 ●昭和四十二年、横浜市生まれ。酒店からコンビニエンスストアへの展開を決断。現在は店長として、腕を振る。

※(財)はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として平成元年より神奈川県内の商業従業者の方を対象に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を主催。海外の商業文化を視察する機会を提供しております。

マイウェイプラザ

コンサート

はまぎんホール ヴィアマール

三枝成彰プロデュース

佐藤美枝子ソプラノコンサート

一九九八年の第十一回チャイコフスキー国際

音楽コンクール声楽部門第一位に輝くソプラノ

佐藤美枝子さんの歌声を、三枝成彰さんの

お話しを交えお楽しみください。

日時 ● 12月7日(火) 午後6時30分開演

会場 ● はまぎんホール ヴィアマール

出演 ● 佐藤美枝子(ソプラノ)

久邇之亘(ピアノ) 三枝成彰(お話)

入場料 ● 3500円(9月11日(土)より各プレイ

ガイドにて発売開始)

お問い合わせ ● ヴィアマール ホール事務局

☎045(225)2173



▶美しいソプラノで世界を魅了した佐藤美枝子さん
▼はまぎんホール ヴィアマール



施設概要

- ホール 客席数517席
- 使用時間 9時～22時まで
- 使用料金 基本料金、技術者料金、付帯設備使用料の合計、基本料金は、1日を3区分に設定、6万525万円。技術者料金は1名3万8000円。有料催事の場合は別途割増料金を申し受けます。
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 5月3日～5日
- お問い合わせ・申し込み先 ヴィアマールホール事務局(銀行営業日の10時～16時 ☎045(225)2173 横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店1階)

はまぎんホールヴィアマールは、コンサート、講演会など、ジャンルを問わず、ご利用いただけます。あなたのステージとしてご利用ください。

年金

へはまぎんからのお知らせ

「年金」電話相談サービスのご案内(無料)

年金制度や年金請求の手続き方法など、年金に関する疑問に何でもお答えいたします。

お気軽にお電話でご相談ください。

土・日曜日も受け付けております。

なお、毎週三回実施している「年金教室」のお申し込みも承ります。

また、年金に関連した雇用保険制度、健康保険制度についてのご相談もお受けできます。

●「はまぎん」年金デスク

☎0120(334)089

●相談受付日

毎日。(ただし、祝日、12月31日～1月3日、

5月3日～5日は休業させていただきます)

●相談受付時間 9時～17時

編集後記

「わたしが受けた地獄の苦しみ、その罰のありかともいふべき罪をさがしてのわたしの旅だったが、そんなものは元々どこにもありはしなかったのだ。この世に罪などありはしない。人はすでに私の誓いによって許されてあったのだから。」小萩の献身的な愛情と介護で覚醒した時に絶叫する小栗判官の言葉。

白石征作・演出による「小栗判官と照手姫―愛の奇蹟―」は中世以来の説教節を再現するもので、現代に見事に甦った遊行かぶさである。

一遍上人ゆかりの藤沢市の時宗総本山遊行寺で今夏も遊行フォーラム99が開催された。会期七日間で、郷土史家や地元商店主らでつくる実行委員会が運営。四回目の今年のテーマは「世紀末と民衆救済」。寺の本堂と境内が会場となった野外

劇「遊行かぶさ」は説教節や緑陰講座と共に見事な地元発信の文化である。

「義経は十六歳で鞍馬山を脱走し、廿二歳で成人した姿を黄瀬川の兄の前に見せた。鎌倉で三年を送り廿五歳で出陣。廿六、廿七歳の二年間に、木曾義仲を破り、屋島、壇の浦に平家を攻め亡ぼし絶頂の働きを見せながらその年の内に没落し、廿九歳で奥州落ち、三十一歳の閏四月二十日に高館で自殺した。」(「義経の周圀」大仏次郎著)

今年には義経没後八百年。義経伝承は東日本各地に色々あるも、藤沢の義経伝承は意外に知られていない。

本書が藤沢の伝説散歩のお役にたてれば望外の幸です。

財団法人はまぎん産業文化振興財団 事務局長 藤原勲一